

善惡迷所一覽

全

913.5

セ

3

一筆庵 或作
一勇齋 國芳画

善惡迷所一覽

善惡道中紀之編 頂恩堂販



雲助の縛曰囉哩と考^え出^し宮根八里、光陰の隙行^く
駒^{こま}で越^こえ^し迅^{じん}流^{りゅう}る。超^こゆ^る踏^{ふみ}出^で大^{おほ}晦^{くろ}日^ひと^と年^{とし}の^し峠^{たけ}の^し
胸^{むね}小^こ支^し辛^{から}く^も過^すて^は後^{のち}巡^{めぐ}頭^{あたま}一^{いつ}夜^よ超^こて^は春^{はる}以^も留^{とど}
息^{いき}。毎^{まい}年^{ねん}名^な日^ひら^ら知^し知^ち。咽^{のど}え^え返^{かへ}と^と息^{いき}を^を春^{はる}と^と
持^も病^{びょう}の^の遊^{あそ}惰^だ碎^{くだ}倒^{たふ}れ^は云^い惜^{おぼ}氣^きも^もか^か。仇^{あだ}小^こ好^{この}日^ひ且^{かつ}其^{その}星^{ほし}
夏^{なつ}候^{ごう}の^の生^{なま}質^{しち}を^を。氣^きと^と鼻^{はな}乃^の下^{した}春^{はる}の^の日^ひと^と傳^{つた}子^こ長^{なが}く。

酒後續因各處查獲。長壽國...
...行路難生...
...教諭...
...果先張...
...早...
...後...

世後臨用...
...氣...
...不...
...其...
...踏...
...往...

一筆筆 一筆筆 一筆筆

借金之 借金之 借金之

惠三骨 惠三骨 惠三骨

心一寸 心一寸 心一寸

射之活 射之活 射之活

故人糟 故人糟 故人糟

冷中家 冷中家 冷中家

易請舍 易請舍 易請舍

嘯之時 嘯之時 嘯之時

必自雜 必自雜 必自雜

用者僧 用者僧 用者僧

弘化五庚申歲發冠



秋の夜半の静寂
 松の葉の音
 月影の移り
 露の滴り
 遠くをゆく
 旅人の足音
 空を渡る
 雲の影
 水に映る
 山の色
 風に揺れる
 花の香
 石の冷たさ
 土の匂い
 空の広さ
 地の厚さ
 人の心
 物の成り
 世の常
 時の流るる
 命の短さ
 死の怖さ
 生への愛
 死への悟
 秋の静寂
 松の葉の音
 月影の移り
 露の滴り
 遠くをゆく
 旅人の足音
 空を渡る
 雲の影
 水に映る
 山の色
 風に揺れる
 花の香
 石の冷たさ
 土の匂い
 空の広さ
 地の厚さ
 人の心
 物の成り
 世の常
 時の流るる
 命の短さ
 死の怖さ
 生への愛
 死への悟



秋の夜半
 松の葉の音
 月影の移り
 露の滴り
 遠くをゆく
 旅人の足音
 空を渡る
 雲の影
 水に映る
 山の色
 風に揺れる
 花の香
 石の冷たさ
 土の匂い
 空の広さ
 地の厚さ
 人の心
 物の成り
 世の常
 時の流るる
 命の短さ
 死の怖さ
 生への愛
 死への悟

○ 秋の夜半の静寂

秋の夜半の静寂
 松の葉の音
 月影の移り
 露の滴り
 遠くをゆく
 旅人の足音
 空を渡る
 雲の影
 水に映る
 山の色
 風に揺れる
 花の香
 石の冷たさ
 土の匂い
 空の広さ
 地の厚さ
 人の心
 物の成り
 世の常
 時の流るる
 命の短さ
 死の怖さ
 生への愛
 死への悟

遂にその本神と有りて老に遊ばずふ業家他法滅た時
 櫻火山の禁断を野野八とてその欲中欲中世園換り
 此の程の南無佛滅法に八種を修めたる人其の徳を
 むすむに先鉄炮を敵ら奪むる是と生捕ね此之の備ふ徳の
 る其物とてゆく二人連年の遊預り日ほ為金の若者人々
 茶余之園ふ金あじと云歎と生捕嗟の川俣恒のそふ
 日毎相く出世老るるある鉄面皮との鉄の皮あり此と照疾
 蛇少く遊せし流子で粟加の為一穴一かとり入る子捕

此獸の欲は船から月無く我身の危きを忘せし金
 と子繰んと勝負の手放とて一叙の刃と流りて地獄の一旦飛より
 踏むと高利の地獄は流るるも踏倒すも唯一超ぬ歎を
 悪法に車ふ乗て擲ぐ立た真はと鉄のたをゆるすと
 核はゆがんと悪道は入りと好も邪流非たは排獨く地を擡
 退ても先へ去やむる此法は門のせせば満ことふ人刑力支上
 たる四は是あり故に神儒佛の抗とては仁義禮智信の
 類とては禁むる在通座の義理はかきとて雲の石止先

其容貌第一則請放萬一

頂

面

Handwritten notes on the left side of the top page, including the characters '頂' and '面' in boxes.



Handwritten notes on the left side of the bottom page.

眼

Handwritten notes on the bottom page, including the characters '眼' and '二' in boxes.





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Several lines contain large, square characters, possibly representing specific terms or section markers. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in a cursive script, similar to the top page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Several lines contain large, square characters, possibly representing specific terms or section markers. The script is dense and fills most of the page area.



荒湯有武
 燒野浦元八
 掛名殿
 大合殿
 無とく
 高名の
 露地

有切月志跡先之... 藤樹之世間... 借法... 元之来... 若くは... 顔... 其の... 月... 武...

の... 勢... 三... 測... 六... 是... と... 思... 以... 本...

まゝも等閑小垂れりて其先非なくも地主加との店入用
至近の波されヨ店受取も届けく至と節場落く店受
難越へ備金出り預りの姓名書取ふ其のハ早春から
あつたのハ獄合初めの有中(女房)の瘻のうへにあつた按戸針
醫と立強ぐ中(五本)の拍文の頓死部とせの龍御の書状とむ
肉店受の息子孫とえ一と披露し生(後)後不(後)候とせ
義理と娘んぐこれ種と係涉の云法と出れぬ(家)業も自(持)と
あつた取捨おれと貸入(子)活(生)も義理も人情も知(り)と
おつた物(志)と地(主)と地(主)と不(理)偏(論)ね(之)の(心)無(り)く(継)續

と文(書)と紙(書)とかけとも無(り)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
若(し)も人(間)もあ(ら)ぬ(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
義理人情小背(か)ゆ(は)店(受)取(り)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
配(合)と俱(合)小(背)り(ゆ)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
痛(切)懐(念)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
地(主)と(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
乃(は)何(れ)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する
燈(籠)浮(光)の(心)無(り)く(大)合(議)の(中)り(計)する

えんし祭礼と信りしは、
神のまじれバ忽不前尾と
小僧の使ふたまきひも
祭礼の中も小判とあり
半貯神口の小切とり
あもちるふと結りんの
の違り物と格条の
ませる烟系入真紙袋
を通し格条のりとり

酒肴と答海山の神ハ
あつて酒ハつても
喧嘩若酒とて
あつて毎日の一
我多て出来ぬ
の果男の客ハ
あも人並く
ごふに様様
るり彩を

と厭せ世間の秋を是より止る如く人の心は憂う小見うて徳を
とて賢とて其身よの爲ふる人よ小の心をなとて不操探る
是より憂おひくして善共共まう種落葉の日は小を
此物朝旦する家の顔く不格をむかへは後正身代を
とらう爰小の林と負之許と崇まじ用落るう是様也一代は
身代と多き一柱の老るれり老年及びび魚形は沈く事不

取端より家内門は空乳と信せし事人忠と雷とく改の是
藤巴は懐引負るは不第と事と元来主人の不形跡を
所以るうとを景行孫は回世小百歳の人年一担千年の計策
と作兒孫は自ら兒孫の福あり兒孫と抱て百牛と作隻
美と心は様物一個は他建く我一代と元の世間とあり
番中く財と食う金の番人となりて死者よまされ

○他小異るる述不体席

一日の初ひは鶴鳴ふありと云の鶴の衣よ三笑の種ありと云の
探も家業の種ありと云の鶴鳴と云の衣よ三笑の種ありと云の

金穀は向く貪みしむ新羅く馬鹿て毛髪と去り人貧ふ迫す
 其心動願して平生の智恵も園とす是も拙く智恵の獲
 貪ふと悔もその文育愚昧の白痴も金儲ちれ人まじり
 勝つと生んばありとすとも貪るんば要人上流され論議有
 子直ぐ向貪はて論とさく而て強めふ人ば村如といひく
 孔子の曰く可也貪みしむ樂も富く強と好美も若と教のひ
 為貴しも性也と貪賤しも樂む男子此より利く乞食豪雄
 ぶく重宝君子へ有るは慷慨と云ふれども兎角強み強き
 て六世はあ甲斐の事案あり是亦人の憾るまじり金穀の

世中みくまぶぞ款はゆり過ぐ一列仙傳も弟和といふ人神丹未
 創を以て黄金を十斤と作く人の貪病を救ひいと云ふは
 是れ貪の病の妙薬なりはる廉も然る業も求む易し
 實は得強さ考へるは茶をれは貧と患ひばて愚痴を
 憂ふなり 皆名聞利欲の迷ひるる悟えりこのたう

○名取取らう徳と云れとら不慈し

佛祖通載より世智辨聰へ人情款慕も有りく以て英
 露と云ふのへり世智賢も若く利欲も流し強きとある事なり
 恥と捨ても取ら徳と公憐て名を取らう徳と云れとら不慈し

御免 御高札之寫

半紙本

全一冊

主役日用條目

附火用慎

四民日用の心得を枉文として記したる一冊

民家日用條目

各一

童叢書も論 安ん教訓もこのまゝと
必書をなす毎家に貯て有年云々

漢齋英泉翁筆

繪本英勇鑑

全二

世に名將勇士の勲業を著し掛屏
として初小島園をいどせり津世不亂を忘
さる勲徳の一端にたりと云々

哥川國直筆

繪本武者袋

全一

古今諸書小出ころ英勇豪傑の画に
其傍に畧傳を著りたるは、この中の
年月時日を著し且童叢書の如草紙不可

諸職

紋切秋

漢齋英泉輯録全

世冊子の画及獨りよみの事諸家の定
紋割方地紋の書や或は切方紙に
諸職坐右小旗をて重宝の

必用

百人一首女訓抄

山田常興大校全二冊

世の中色紙紙舞の形方を著
且秋の三條のりくを記したる
童叢書にたりと云々

人間一生 一筆算主人戲作
善惡道中記 全

獨案内 溪齋英泉畫
善惡道中記 全

善惡道中記 第三編
同 迷所圖會 全

同 四編 五編 追迹刻

前北齋 卍老人筆

卍翁 叢畫 全一冊

早 卍 十露盤 誓古鑑 一冊

相 改正金剛傳 立川焉馬作 全一冊

相 關取名勝圖會 右同作 全一冊

力競 相撲取組圖會 右同作 全一冊

實語教童子教餘師全冊

諸職往來 各一冊
御江戸方角

嘉永 二己酉年正月再刊 銀座四丁目
東都書肆 頂恩堂 本屋 又取書料

世草子 人生の食福米柄得夫の
事と道中の趣小あやしく滑稽
の兒が童蒙の教訓とある言こと
前編小做ひ名所不念の縣裁を以て
おもしろく作られた後を包む酒意なく
されども初善徳悪の二を多かるは

二編小願で具のほげ浦綴り
奇物小誌と世間人情の報を滑稽
を以て以て教訓の二層をわたり

世傳の草木虫魚鳥獸不れさせ
普通の情態をわく半戯
教訓の一助とある言こと次を述

老先生九十年長壽の心得
人々及八獨字一家の如筆更
實傳神笑干はて目出度馬手本也

世草子の地を弄ぶその塵功記
りつひ童蒙歌中も解し
多割とて名をせしむるあり

世草子の近世の相撲名を
全冊たるをあげた神うり
勢たるとあま推し

諸職往來 江戸方角の
御江戸方角 各一冊

